◈あとがき

今、日本の料理が、「健康的ですばらしい食事であると世界の国々から脚光を浴びております。

しかし、このように伝統のあるすばらしい郷土の料理が、私達の食卓から今消え去ろうとしていることに気がつき、早速、ふるさとの味として、ぜひ郷土に残しておきたいと思い、この本を発刊することになりました。最初は、会員から料理を収集してみましたが、なかなか思うようには進みませんでした。本格的に編集にあたってきたのが、一昨年からです。行事の言われと料理については、各集落から、特に丹生、粟生、和合、鶴子、正厳、野黒沢、尾花沢、鶴巻田、荒町のそれぞれの80才すぎのお年寄りからの聞き書をまとめ、編集委員の方々が各自料理を再現し、写真については分担したり、広報係にお願いして、撮影しました。編集委員の方々の熱意と郷土の文化を大切にする心がこのような立派な本の発刊になったものと思います。この本の集録にご指導いただいた大類林一先生、折原敬一郎先生並びにご協力いただいた各関係機関の方々に深く感謝申し上げます。

尾花沢市食生活改善推進協議会事務局 佐　藤　悦　子

◈編集委員の方々のひとこと

○ふるさとの行事と食べ物は記録として残しておきたいと思いました。　俊

○家族のふれあいの場のアイドルにして下さい。　ミワ子

○子どもの頃に帰ったようで、昔のことが懐しくなりました。　千恵子

○娘の嫁入り道具の一つにして下さい。　ミ　ナ

○昔をたずねて、新しきことを灯として　モ　ト

○ふるさとの文化遺産として大切にしていきたいものです　嘉　子

○先人が考えた料理はその生活体験から生れた真心のこもったものばかりで感心いたしました。　イチ子

○先人の知恵と技は、まったく感心させられることばかりでした。　栄　孝

○山あいに生れた食文化を私達の手で　育　子

○わが家の料理にぜひ活用してね　トモ子

尾花沢地方の行事食　伝えたいふるさとの味

印刷発行　平成元年６月30日

編集発行　尾花沢市食生活改善推進協議会

（尾花沢市大字尾花沢2861番地　尾花沢市役所保健課内
電　話(0237) 22－1111）

印　　刷　(有)加藤活版所
尾花沢市大字尾花沢2609の11　電　話(0237) 22－0132